

2026年3月22日（日）第1礼拝「絶えず祈りなさい」 I テサロニケ 5章 17節

主は霊です。霊は御言葉であり、私たちのうちに思いを入れてきます。思いには、肉から来る思いと霊の思いがありますが、霊の思いは平安といのちをもたらします。私たちが絶えず呼吸して生きるように、祈りとは霊の呼吸であり、絶えず祈ることが大切です。

第一番目、祈りは主を思うことです。イエス様を信じると、私たちの霊は生きています。霊は私たちのうちにイエス様への思いを入れてきます。祈りとは神様との呼吸であり、霊的いのちを維持する行為です。祈りを通して神様と交わり、御言葉を口ずさみ、イエス様の十字架を思い巡らします。私たちの罪がイエス様を刺し通したこと、また、イエス様のよみがえりによって私たちはよみがえり、天の所に座らせてくださったことを思いつつ、自分の罪を悔い改め、「イエス様を愛します、感謝します、ゆだねます」と祈ること、これが霊の呼吸であり、主との交わりです。ローレンス兄弟が落ち葉一つ拾う時もイエス様と共に行うことを意識していたように、私たちも日々の生活の中で主を思い、主と共に歩むことが大切です。

第二番目、叫ぶ祈りです。「わたしを呼べ(エレミヤ 33:3)」は、韓国語で「わたしを呼び叫べ」と書かれています。また、「神様、私を助けてください」という祈りは、聖書に二百二十回書かれています。私たちには救いの力もなく、自分で解決もできません。ですから、主を叫び求めるのです。イエス様がいつもおられた場所はゲッセマネ(油を搾るという意味)でした。イエス様はゲッセマネで、汗が血のしずくのように地に落ちるほど、力の限り叫び、祈られました。その時、天使がやってきてイエス様を力づけました。また、チャールズ・スポルジョン師も「情熱の無い祈りは、祈りではない」と言いました。情熱的に叫ぶ祈りはとても大切なのです。盲人のバルテマイはイエス様のことを聞いて、「ダビデの子、イエス様、わたしを助けてください」と叫び続けました。周りの人が彼を黙らせようとたしなめましたが、彼はますます声を上げてイエス様を求めました。すると、イエス様は彼の声に耳を傾け、彼を呼ばれ、その目は開かれました。主は私たちの叫ぶ祈りに答えてくださり、そこに御霊が臨み、力が与えられ、私たちの知らない大いなる事、主の御心を教えてくださいます。

第三番目、祈りは箱舟を造ることです。私たちが祈る時、箱舟が造られます。全世界は揺れ動きますが、祈りを通して私たちは様々な災いから守られます。それだけでなく、祈りは周りの人の救いのためでもあります。困難な状況にある他国のために、特にイスラエルのために祈ることが大切です。また、イランが核兵器を放棄し、四十七年にも及ぶ宗教弾圧が終わり、イランとアメリカの戦争が終わり、イランが自由になるように祈ることも大切です。イランの国家目標はイスラエルを世界地図から消し去ることです。しかし、イスラエルは聖書の中で最後まで残されており、イエス様の再臨もエルサレムのオリーブ山です。異邦人の数が満ちる時、イスラエルは民族的に救われます。そして、彼らがイエス様を招く時、イエス様はオリーブ山に再臨されると聖書に約束されています。ですから、私たちは祈り続け、箱舟を造りましょう。日本がリバイバルし、イスラエルを祝福する者となると信じます。